

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：34304

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K12888

研究課題名（和文）伝統意匠の社会的受容と職人の技能継承に関する研究 - 京仏壇・京仏具を対象として

研究課題名（英文）Study on the Social Acceptance of Traditional Designs and the Skill Succession in Craftspeople: Focusing on Kyo-butsudan and Kyo-butsugu

研究代表者

成田 智恵子（Narita, Chieko）

京都産業大学・文化学部・助教

研究者番号：10791501

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は各工芸の粋が集約された総合工芸品である京仏壇・京仏具を対象として、伝統意匠の受容に関する経時的な変遷と職人の視点に立脚した技能継承の過程を顕在化した。社会的受容の変化に伴い、仏壇・仏具が有する意味や意匠、職人が技能を発揮する環境にも変化が見られる。本研究を通じて、工芸の集約地かつ各宗派の本山が集う京都の仏壇・仏具産業従事者の知見をもとに「伝統意匠の社会的受容」と「職人の技能継承」の実態と意義の一端を明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

工芸品の意匠は各時代・各地域の文化・社会を反映した意味を持つ。また、工芸品には先達の技を受け継いできた職人たちの叡智が集約されている。本研究を通じて、分業制によって支えられてきた京仏壇・京仏具の意匠の社会的受容および職人の技能継承の実態と意義を明らかにしたことにより、時代を越えて人から人へと継承されてきた日本のものづくりの変化を紐解くための実践的示唆を得た。本研究の成果は日本のものづくり文化や技能継承の在り方に対するより一層の社会的関心や学びを広く促すことに繋がる。

研究成果の概要（英文）：This study focused on Kyo-butsudan and Kyo-butsugu, which are comprehensive crafts supported by the expert skill of craftspeople in each process, to reveal change in acceptance of traditional design over time and the process of skill succession based on the viewpoint of craftspeople. The meaning and design of Buddhist altars and fittings, and the circumstances where craftspeople show their expert skill have been transformed with changes in social acceptance. This study revealed one aspect of the actual situation and significance of “social acceptance of traditional design” and “skill succession in craftspeople” based on the knowledge of the people engaged in the Buddhist altars and fittings industry in Kyoto, a leading city for traditional crafts and religion.

研究分野：伝統工芸

キーワード：伝統工芸 職人 技能継承 ものづくり 京仏壇・京仏具

## 1. 研究開始当初の背景

京都は多種多様な工芸が集約した日本最大規模の伝統工芸産地である。京都の伝統工芸の多くは平安遷都に伴うルーツを持ち、令和の時代を迎えた今に至るまで継承され続けている。工芸における意匠は、古くから文献や図録など様々な資料が残されている。特に明治時代以降は近代化が進んだことにより、輸出工芸品や染織工芸品の意匠に関する資料が多く残されている。一方、国内の工芸品の意匠や職人の知見に関する体系化された資料は少なく、その動向に関しても調査が進んでいない。

仏壇・仏具もまた調査が進んでいない工芸品のひとつである。仏壇・仏具には木地や木彫刻、漆塗、蒔絵、箔押、彩色、金属工芸などの様々な工芸と意匠が集約されている。寺院用の仏壇・仏具は古くから存在する一方、家庭用の仏壇・仏具は江戸幕府の宗教政策によって一般庶民の生活に普及したこともあり、他の伝統意匠と比べるとその歴史は新しい。また、江戸時代の神仏分離や明治時代の廃仏毀釈、昭和時代の大戦に伴う金属不足の影響を受けるなど複雑な社会的背景もあり、意匠や社会的受容、継承に関しては不明な点が多い。

全国各地に存在する仏壇・仏具の産地の中でも、本研究では特に京仏壇・京仏具に着目した。京仏壇・京仏具は現在も分業制によって支えられており、各工程において最高峰の技能を有する職人たちが手仕事を通じて伝統意匠と技能の継承を行なっている。一方、ライフスタイルや宗教信仰、死生観の変化などに伴い、京仏壇・京仏具を取り巻く環境も大きく変化している。従来行なわれてきた技能者間の生きた知見や技能の継承も困難になってきている。そのため、本研究では時代の変化に応じて、「伝統意匠が社会的にどのように受容され、さらに職人の手仕事を通じて、どのように受け継がれてきたのか」を解明するために、京仏壇・京仏具を研究対象とする調査研究に着手した。

## 2. 研究の目的

本研究は京仏壇・京仏具に施されている意匠を対象として、「伝統意匠の社会的受容」と「職人の技能の継承」の実態と意義について明らかにすることを目的とした。具体的には、現在も分業制を保ちながら、手仕事によって受け継がれている京仏壇・京仏具の産業従事者の協力のもと、京仏壇・京仏具を取り巻く環境や、職人がどのような考えをもって制作にあたり、そしてどのような伝え方をもって伝統意匠と技能の継承に努めているのかを〔京仏壇・京仏具の現物調査と職人に対するインタビュー調査〕〔京仏壇・京仏具に施されている意匠の分析〕〔時代背景との関係性の考察〕の3つから明らかにした。

## 3. 研究の方法

研究方法は次のとおりである。

京仏壇・京仏具の現物調査と職人に対するインタビュー調査

京都府仏具協同組合の商部（主に製造卸や製造小売、販売業者）と工部（製造に関わる生産者や加工業者）を中心として現物調査とインタビュー調査を行なった。

京仏壇・京仏具に施されている意匠の分析

京仏壇・京仏具の現物調査と資料調査、そして関連業者からのインタビュー調査の結果をもとに意匠の分析を行なった。

時代背景との関係性の考察

および の結果を踏まえて、京仏壇・京仏具の工程・材料・道具・技法と主題・モチーフとの関係性から、伝統意匠に対する受容の変遷と、それに伴う職人の技能継承の過程を考察した。

## 4. 研究成果

本研究を通じて、京仏壇・京仏具の歴史的背景や伝統的な京仏壇の制作工程、荘厳の在り方、京仏壇の意匠の変遷を系統的に整理した。また、京都府仏具協同組合の商部所属の仏具商と工部所属の各工程の職人（木地、屋根、木彫刻、蟬色、箔押、蒔絵、彩色、鍍金具など）にインタビュー調査を行なった。仏具商には、(1)産地の特徴、(2)受容の変化、(3)意匠の変化の3項目を主たる質問項目として半構造化インタビューを行なった。工部所属の職人には( )時代状況や施主の要望に応じてどのような技法が求められたのか、( )その要望に対して職人がどのように工夫を凝らしたのか、( )職人がどのように伝統意匠を表現する技能を習得し、継承しているのかの3項目を主たる質問項目として半構造化インタビューを行なった。

これまでの伝統意匠や工芸に関する研究においては、研究者視点の観察者・分析者としてのアプローチに主眼が置かれてきた。一方、意匠の受容と継承の実態を考える上で、職人の技能という視点が著しく欠けていた。そのため、京仏壇・京仏具に対する受容の変遷とその変遷の中で継承され続けてきた手仕事の今や今後の在り方についての当事者たちの知見を顕在化し、社会に

発信したことは本研究の大きな成果である。また、京仏壇・京仏具の分業制に着眼し、仏具商や各工程の職人を対象として、それぞれの立場における仕事内容の変遷や分業制の在り方、技能継承への取り組みなどを明らかにした点は本研究独自の成果であると言える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 成田 智恵子, 下出 祐太郎, 西村 眞仁, 西川 博之, 吉岡 尚美, 小西 歩, 西村 純一	4. 巻 48
2. 論文標題 伝統工芸の持続可能な未来へのチャレンジ デザイン心理学とキャリア心理学の視点から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 応用心理学研究	6. 最初と最後の頁 196, 206
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成田 智恵子	4. 巻 29
2. 論文標題 京仏壇・京仏具の社会的受容とその実態について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 京都産業大学日本文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 136, 118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 成田 智恵子
2. 発表標題 京仏壇・京仏具の社会的受容と職人の技能継承に関する研究
3. 学会等名 日本応用心理学会第88回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 成田 智恵子, 下出 祐太郎, 西村 眞仁, 西川 博之, 吉岡 尚美, 小西 歩, 西村 純一
2. 発表標題 伝統工芸の持続可能な未来へのチャレンジ デザイン心理学とキャリア心理学の視点から
3. 学会等名 日本応用心理学会第88回大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1．著者名 下出 祐太郎[監], 成田 智恵子[著]	4．発行年 2023年
2．出版社 中外日報社	5．総ページ数 99
3．書名 京仏壇・京仏具	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------